

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

夫逝きて十とせ余経たる今にして夢にて会へば顔若し 佐藤 すみ
濡らしゆく寒九の雨に此の年も豊作なれと天 八嶋 正子
地にねがふ 男の傘をさして雨ふる街を行くつづまれていることさやすらぎ 大槻 きよ
正月のだんご挿したる水の木の節目に緑萌えてさやけし 平間 久子
朝食の膳に朝日の差し入りて今日も元気に生くる喜び 佐藤キワ子
この海に生業をたつる漁師らは合羽はち巻腰にかぎ棒 後藤今朝雄
幼きが玩具手にのせ品定めそばに眺むる爺さまでの目尻 遠藤 行夫
早春の凍土の中より萌え出でてけなげに咲ける福寿草の花 阿部 英雄
峡深く同級生を尋ねゆき久方ぶりに健在確かむ 高子うこん
北風は掃宅を急ぐ子らの頬つめたたく染めていづくにかかる 後藤 淑子

【評】一首目、思いもかけぬ会いはうれしい。結局に、さわやかな余韻。
二首目、寒に入って九日目の雨は吉兆。農事にたずさわる人の願いがそのままに詠まれている。
三首目、どんな様の傘かもしれぬ。早春の街、こんな気分の歌があつてもいい。

俳壇

遠藤 秋尾 選

春隣一番星のや、うるむ 山家 弘子
春蘭の蕾の先に青い空 高子うこん
蒲団干すよなき朝となりけり 岩松 隆志
鱈ちりの湯気立つ夕べ風強し 阿部はぎの
眠りから覚めるが如く梅ふふむ 服部 忠孝

「天地人」

風間市長の風のとさくやき

今年のNHK大河ドラマは「天地人」ですね。上杉家を支えた直江兼続が主人公のドラマです。私も、毎週ビデオに録画しながら楽しみに見えています。特に、戦国や幕末の時代劇が好きです。上杉謙信と武田信玄、織田信長と豊臣秀吉、徳川家康の天下統一物語、そして伊達政宗など、それぞれの主人公が持つ人間性やスター性、カリスマ性、サクセスストーリーに、夢やあこがれを持って見ていたものです。歴史ものが好きで本やテレビをよく見ており、上杉景勝は豊臣家の五

と、2つの時代が交互に舞台となつていきます。来年は幕末で「坂本竜馬」だとか。時代劇の中では、この戦国時代と幕末期の人氣が高く、視聴率が良いとのこと。そして歴代大河ドラマの、視聴率ナンバー1は「独眼竜政宗」であるとのこと。また、今年は大河ドラマ始まって以来初めての、関ヶ原合戦の「敗者」が主人公になる作品だということ。主人公の立場で、その時代の

政宗公の白石城攻略があります。その後で、片倉小十郎公が入城するわけです。今年の大河ドラマに、「愛宕山天権現守護所」の前立物をつけた勇敢でりりしい武将、片倉小十郎公が登場することをひそかに願っています。今年の大河ドラマのタイトル「天地人」とは、「天の時、地の利、人の和」のことで、物事を成し遂げるための重要な要素だそう。どの時代においても、一人では事を成すことはできず、それぞれが持つ力(技能)を結集して事を成し遂げてきたわけですね。

現代とて同じことだと思います。だからこそ「共に」の精神でいきましょう!

話は変わりますが、幕末に活躍した「新撰組」の、羽織の文様のルーツを、ご存じですか?

【3月号の答え】

第1セクターは、国や地方公共団体、第2セクターは、民間企業を指します。そして第3セクターは、地方の開発事業などを実施するため、国または地方公共団体と、民間企業が共同で設立した事業体を指します。

出来事や人物像、物事の善悪が変わることがよくあります。「ドラマですから」とは言うものの、見た人のイメージが変わるのは怖いものです。今回の大河ドラマにも伊達政宗公は登場します。気になるのは描かれ方です。なにせ伊達家は上杉家の好敵手ですから。片倉家が白石城主となる以前、白石城の城主は、上杉景勝譜代の甘糟景継でした。慶長5(1600)年7月、「もう一つの関ヶ原」と言われる、

【評】一句目、一番星がおほろに見える夜である。春はすぐそこまで来ている。
二句目、春蘭の蕾に、待ちに待っていた春を感じる青空が良い。
三句目、「蒲団」は冬の季語。小春日和の、またとない日表現された。
「市民俳句初心者講座」を、本町のふれあいプラザで5月3日(祝)から開始します。ペーパー1本をお持ちになって、お気軽にお越しください。連絡は山家弘子さん(☎25-8116、ファクス番号も同じ)まで。

柳壇

四電 英夫 選

横綱のガッツポーズにでる批判 草野 清
倅せは失くした後で気付くもの 斎藤 典子
子は育ち親の心配うるさがり 宗像 孝喜
少しづつ移動している日向ぼこ 大庭 良子
夢希望不況の波にかき消され 寺崎 悦子
真直に歩いて貧乏つきまとい 山田 守
雑草といくさするのを楽しみに 高子うこん
給付金行き場ない人救いたい 阿部はぎの
おばさまのファミレス会議時忘れ 遠藤 行夫
箸とれば歳もメタボもつい忘れ 阿部みさ子

国際コーナー

International Corner

楽しく英語を学ぼう! 「E I G Oで話そう」が開催されました

2月14日、本市の外国語指導助手(ALT)の皆さんと一緒に英語を学ぶ「E I G Oで話そう」が、壽丸屋敷で開催されました。かつて、「E I G Oで話そう in 壽丸屋敷」として開催されてきましたが、平成18年12月以降現在まで開催されていませんでした。2年ぶりの開催に力を注いだのは、実行委員会の代表である西益岡にお住まいの渡辺敬介さん。「英語を学ぶには会話が大切です。できるだけ多くの皆さんが英語を楽しく学ぶことで、世界で活躍する人が白石からたくさん誕生してほしいと思います」と語る渡辺さん。また、「ALTの皆さんにも友だちの輪を広げるきっかけとしてほしいです」と話していました。この日は、市内のほか周辺のまちから14人の子どもを含む約40人の皆さんが参加。本市のALTに加え、七ヶ宿町や大河原町、角田市、名取市、仙台市から駆け付けた、8人のALTと共に5つのグループに分かれ、ゲームで楽しく英語を学びました。仙台市のALTジェンさん(カナダ出身)は、「みんなと楽しく会話ができてうれしかった。友だちもでき

ました」と笑顔。本市出身で2人のお子さんと参加した菊地さかえさん(福島県国見町在住)は、「子どもから参加したいと言われ参加しました。ゲームを交えているので、子どもたちも分かりやすかったです」と語り、親子で楽しく英語の会話を楽しんでいました。



▲ゲームをしながら楽しく英語の勉強

まちの話題

～あの日、あの時～

Diary

大鷹沢小学校で団七踊りの引き継ぎ式

2月19日、大鷹沢小学校(山川俊範校長)で団七踊りの引き継ぎ式が行われました。団七踊りは、江戸時代(1640年)に起こったあだ討ちを踊りで表現したもので、全国各地に伝わっています。あだ討ちの原因となった無礼討ちは、大鷹沢地区が舞台。大鷹沢小学校では、地域の歴史と伝統芸能を大切に守っていきこうと、20年以上前から団七踊りの伝承活動に取り組んでいます。この日は、卒業する6年生19人が、5年生と共に最後の踊りを披露。4年生に鎖がまなどの小道具や、衣装を渡しました。6年生の代表が「何度も練習して、やっと覚えた踊りです。在校生の皆さんに伝統を引き継いでほしいです」との思いを述べたのに対し、在校生の代表も「頑張って伝統を守っていきます」と引き締まった表情

で答えました。先輩から後輩へと受け継がれる地域の伝統芸能。真剣な表情の子どもたちを、周囲にいた大人たちが、目を細めて見守っていました。



▲6年生から4年生に、なぎなたや刀、鎖がまが引き渡されました。